

音が「意味」するものとは 2

『「武士道」とは、恥を知り、覚悟を究める道』

文 光吉俊二
text by Shunji Mitsuoyoshi

無 能なまま権力に居座り続ける恥知らずな為政者たちが、子供たちはどう映っているのか心配になる。恥を知っていた頃の日本人の生き様、戦後教育で払拭されてしまった「武士道」を考察したい。

宮本武蔵は『五輪の書地の巻』で、「世の中に完璧な兵法を会得したものはいない。道というものは、僧侶は仏法に、医師は医道に、それぞれ分相応に精進するもの。義理を知り、恥を知り、死ぬことは、僧侶も、医師も、女性も、百姓も差はない。武士は『どんな状況でも誰よりも潔く死ぬ』という本質をふまえ、名誉を重んじ主君の為お役に立てるよう常に心がける、それが『武士道』である」と論じている。

英訳された日本の三大業書のうち2つが「武士道」をテーマにしており、その1つが『五輪書』である。今の政治家・官僚に足りない全てがここにあり。彼らの「主君」は誰なのか。

震災後、自衛隊は国民の97%から支持された。某元首相による日本人拉致関係者への資金提供問題、原発事故の

原因となる明らかに間違った対応問題などで保身に走る姿と、その事故の尻拭いをしながら寡黙に被災者を救け続けた自衛隊とではイデオロギー以上の人間性の違いを感じたからであろう。

全てが明るみになる日がくる。政権交代という人災の意味を、人々は知ることになる。私たち日本人は、この政権交代でやるべきことがある。許されざるモノが一体誰か、恥の意味、嘘つきの意味を末代まで事実として焼き付けなければ、また同じ歴史が繰り返される。そして、私はこれら人災・天災からの再生の源に、日本民族独自の哲学「武士道」を再評価したい。

地方の中央病院を経営する親戚の医師が重篤な病にかかり、再生医療である「幹細胞」移植手術を紹介した時、彼は静かな笑みを浮かべ辞退した。多くの患者の死と向き合ってきた医師の生の在り方の到達点を見た気がした。かつて日本のリーダーは、死に様に対する覚悟を持っていた。それ故に、尊敬できる人格者としてリーダーたる資格があった。「武士道」とは覚悟を究める道といえる。

被災地で、凍える小学生や老人の横で、宇宙服のような姿で「大丈夫だ」を繰り返す議員たちには及びもつかない深遠な人格と覚悟を兼ね備えた天皇陛下が、被災者の前で膝を折り、心臓まで悪くされながら「辛くはないですか」と声をかけられる姿を拝見し、この方のためなら死ねると覚悟ができた。私の中の日本民族と「武士道」のDNAのスイッチがオンになった瞬間である。

Profile

日本の情報工学者であり彫刻家。北海道札幌市出身。多摩美術大学美術学部彫刻科卒業。徳島大学大学院工学研究科博士後期課程修了、現在、博士(工学)。元スタンフォード大学バイオロボティクス研究所 Visting Scientist (客員科学者)。現在、東京大学非常勤講師、株式会社AGI代表取締役である。専門は、ST (Sensibility Technology) 感性制御技術・VER 音声感情認識技術、音声脳神経分析技術。

